

目 次

繊維情報

・2006年4月の繊維品輸出概況(繊維品全体・原料・織編物・主要二次製品)	1
・2006年3月の繊維品輸入概況(繊維製品計・糸類・織物類・衣類)	7
・アジア 中国 2006年第1四半期の繊維品輸出、高率の伸びを維持	10
韓国 2005年第1四半期の繊維品貿易、輸出は4%減、輸入は大幅増加	12
・米州 米 国 2006年3月の繊維品輸入、2カ月連続の減少	15
2006年4月の大手小売店販売、2年ぶりの7%の高い伸び	18
対中繊維規制品目枠消化状況(5月23日現在)	20
木製梱包材規制を強化	21
・欧州 E U 対中繊維規制品目枠消化状況(5月24日現在)	22

組合関係の会議と催事

・(2006年5月)(2006年6月のスケジュール)	23
----------------------------------	----

組合業務報告

・輸出組合・第7回通常総会、輸入組合・第43回通常総会を開催(輸出入)	25
・「繊維の基礎知識研修会」を開催(大阪地区/輸出入)	29
・「日本繊維輸入組合とインド TEXPROCIL との懇談会」開催概要(輸入)	30

お知らせ

・繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出)	33
・「大韓民国」向け他2カ国のカテゴリーの変更(輸出)	34
・「外国為替の基本」講習会(大阪地区)の開催(輸出入)	34
・7月の輸入通関手続相談窓口開設日(輸入)	35

組合員情報

・組合員情報	35
--------------	----



2006年4月の繊維品輸出概況

- ・ 繊維品全体の輸出
- 前年同月比 6%減の 6 億 2,506 万ドルと 2 ヶ月連続の減少 -

2006年4月の繊維品輸出は、ドルベースで、前年同月比 6%減の 6 億 2,506 万ドル(1 - 4 月前年同期比：6%減)と 2 ヶ月連続の減少となった。

但し、為替が 2005年4月の 107.36 円に対し、2006年4月は 117.11 円と約 9%の円安推移となっていることから、円ベースでは 3%増(同 5%増)の 732 億 100 万円と前月に続き増加している。

< 主要地域別輸出 >

4月の輸出を主要地域別に見ると、全輸出の 75%を占め、わが国の輸出動向を左右する最大市場の東アジア向けが、前年同月比 9%減(同 7%減)の 4 億 6,341 万ドルと、大きく減少し、全体の輸出減少に繋がった。

東アジアの主要国向けでは、ベトナム、マレーシア、フィリピンが増加推移となったが、最大市場の中国を始め、香港、韓国、台湾、タイ、シンガポール、インドネシアが減少推移となった。中でも中国が 2 桁の減少となったのが大きな打撃となっている。

純輸出市場向けは、シェア 5%の西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国、イランが大幅に増加し、全体として 44%増(同 23%増)の 2,879 万ドルと、オイル景気もあり、今年に入り、好調な推移が続いている。

欧米市場は、シェア 9%の EU は糸類が健闘したが、織物類が振るわず 4%減(同 12%減)の 5,639 万ドル、一方シェア 8%の米国は織物類が頑張り、1%増(同横ばい)の 5,272 万ドルとなった。

< 主要商品別輸出 >

4月の輸出を主要商品別にみると、まず綿類の輸出は、全体としては、数量で 7%減(同 3%減)、金額で 3%減(同横ばい)と数量、金額共に低調な推移となった。

太宗の合繊綿は、数量で 6%減(同横ばい)、金額で 4%減(同 2%増)となった。

この内、主力のアクリル綿は、主要国の中国、インドネシアが落ち込み、イランは著増となったが、数量で 3%減(同 1%増)、金額で 4%減(同 4%増)と後退推移となった。

一方、ポリエステル綿も、中国は健闘したが、タイ、EU、米国が減少し、数量で 12%減(同 2%減)、金額で 12%減(同 6%減)となった。

その他の合繊綿では、ビニロン綿は、主力の EU 向けが減少し、数量で 25%減(同 16%減)、金額で 35%減(同 20%減)の大幅減少となった。

織維品輸出実績（2006年4月）

単位	2006年4月						2006年1月～4月						2005年実績			
	数量		金額		前年同月比		数量		金額		前年同期比		数量		金額	
	数量	百万円	千ドル	千ドル	数量	ドル	数量	百万円	千ドル	千ドル	数量	円	ドル	数量	百万円	千ドル
織維品総合計	ドル															
原料(綿)合計	トン	32,426	73,201	625,058	94	93	137,525	284,767	2,432,969	328,680	97	112	100	416,305	890,100	8,070,165
スフ綿		4,750	2,007	17,134	99	107	19,682	8,160	69,780	94	113	101	63,446	23,495	107,778	978,717
合繊綿		25,167	6,854	58,529	94	96	107,569	29,494	251,947	100	113	102	316,728	81,370	212,920	739,213
(ポリエステル)		3,828	704	6,008	88	88	15,769	2,804	23,956	98	105	94	45,356	7,900	71,868	71,868
(アクリル)		19,034	4,813	41,099	97	96	82,218	21,438	183,105	101	116	104	242,939	59,092	536,513	536,513
糸 合計	トン	10,597	8,142	69,522	97	97	43,452	31,758	271,377	98	103	93	132,208	95,133	864,266	864,266
人絹糸		837	652	5,569	92	88	3,803	3,187	27,244	90	110	99	12,825	9,694	87,856	87,856
スフ糸		25	40	345	77	71	87	122	1,042	76	74	67	306	430	3,918	3,918
合繊長糸		8,807	6,431	54,912	94	95	36,256	25,036	213,928	99	101	91	107,118	72,886	662,944	662,944
(ナイロン)		1,818	1,446	12,344	80	91	8,147	5,856	50,047	88	101	91	23,971	16,878	153,473	153,473
(ポリエステル)		3,212	1,500	12,812	91	90	13,123	6,025	51,480	98	101	91	39,619	17,695	161,032	161,032
合繊短糸		353	282	2,410	115	81	1,244	1,022	8,733	92	99	89	4,378	3,565	32,329	32,329
綿糸		417	312	2,661	196	140	1,557	1,179	10,078	107	101	90	5,540	4,213	38,008	38,008
織物合計	千SM	95,736	27,437	234,288	93	91	368,124	107,894	921,767	97	99	89	1,220,260	359,644	3,257,973	3,257,973
絹織物		718	1,251	10,886	104	93	2,751	4,424	37,783	115	101	91	8,261	13,387	121,576	121,576
人絹織物		6,582	2,136	18,236	94	96	22,119	8,141	69,530	92	106	95	81,049	25,408	230,287	230,287
スフ織物		698	299	2,556	75	66	3,298	1,339	11,452	80	77	69	12,434	5,172	46,859	46,859
合繊長織物		44,548	9,401	80,276	91	92	164,602	35,348	302,026	99	103	93	569,210	121,637	1,100,944	1,100,944
(ナイロン)		5,642	1,282	10,945	109	128	20,199	4,242	36,232	114	134	120	58,693	11,881	107,382	107,382
(ポリエステル)		34,852	6,928	59,156	90	91	124,172	25,370	216,760	97	102	92	447,797	91,064	824,217	824,217
合繊短織物		13,594	3,095	26,428	108	97	57,124	12,600	107,635	106	103	92	166,976	39,477	358,090	358,090
綿織物		26,711	9,112	77,807	93	88	106,991	37,718	322,217	94	97	87	324,399	112,859	1,023,683	1,023,683
毛織物		2,562	1,898	16,211	85	88	8,980	6,482	55,377	78	87	78	54,172	38,815	350,009	350,009
不織布	千SM	48,524	4,821	41,166	98	93	193,468	19,697	168,336	103	115	104	592,985	55,758	505,607	505,607
タイヤコード織物	千SM	1,170	165	1,409	86	66	4,974	842	7,194	92	97	87	15,300	2,565	23,416	23,416
コーテッド織物	トン	1,670	4,016	34,297	100	94	5,366	13,199	112,723	97	105	95	17,585	42,650	387,386	387,386
ニット生地	ドル		5,586	47,698		104		21,002	179,394		115	103		66,435	600,666	600,666
アパレル	ドル		3,297	28,157		89		13,572	116,011		97	87		40,709	370,175	370,175
その他	ドル		10,675	91,158		97		38,335	327,487		110	99		119,428	1,081,958	1,081,958

(注) 1. 織維品総合計は、HS関税分類11部の合計。 2. 原料(綿)、糸、織物合計は分類番号50類から55類までのそれぞれの合計。

3. アパレルは61類(ニット製衣類)と62類(布帛製衣類)を合算したもの。 4. その他は、63類及び59類～59類の一部商品。

スフ綿は、韓国、パキスタン、トルコが増加したが、主力の中国が大幅な減少となり、数量で1%減（同6減）となったが、金額では単価の上昇により7%増（同1%増）となった。

糸類の輸出は、数量で3%減（同2%減）、金額で3%減（同7%減）となった。

主力の合繊長繊維糸は数量で6%減（同1減）、金額で5%減（同9%減）となった。

その内訳は、ポリエステル糸は、中国が伸びたが、台湾、米国、EUが振るわず、数量で9%減（同2%減）、金額で10%減（同9%減）となった。一方、ナイロン糸は、主力の中国、タイ等東アジア向けが不振で、数量で20%減（同12%減）、金額で9%減（同9%減）となった。その他の合繊長繊維糸では、ポリウレタン糸は、太宗の中国を中心とする東アジアが不振で、数量で22%減（同7%減）、金額で27%減（同29%減）と大きく後退した。

また、人絹糸は、中国、韓国が不振に推移し、数量で8%減（同10%減）、金額で12%減（同1%減）となった。

太宗の織物類の輸出は、数量で7%減（同3%減）と、金額で9%減（同11%減）となった。

織物の内訳では、中心品目のポリエステル長繊維織物は、数量で10%減（同3%減）金額で9%減（同8%減）となった。

地域的には、全体の63%を占める東アジア向けは、主要国ではタイ等好調に推移した国も一部あるが、最大市場の中国を始め、韓国、香港、ベトナム、台湾が減少し、東アジア全体として11%減（同4%減）と2桁の減少となった。

一方、純輸出市場向けは、西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国が共に減少に転じ、西アジア全体として8%減（同16%増）となった。

欧米市場向けは、EU向は10%増（同9%増）と先月に続き増加したが、一方、米国は10%減（同21%減）と不振が続いている。

ナイロン織物は、数量で9%増（同14%増）、金額で28%増（同20%増）と好調な推移となった。

シェア85%の東アジア向けは、主力の中国、ベトナムが健闘し、全体として17%増（同21%増）となった。その他では、シェア6%の米国は2%減（同28%減）となった。

綿織物は、数量で7%減（同6%減）、金額で12%減（同13%減）と、数量、金額共に不振推移となった。

85%のシェアを占める東アジア向けは、最大市場の中国、香港、ベトナムが減少推移となり、東アジア全体として8%減（同3%減）となった。その他の市場では、シェア9%の米国は10%減（同17%減）と引き続き減少推移に終わった。

ポリエステル短繊維織物は、数量で7%増（同7%増）となったが、単価の低下により、金額では2%減（同6%減）となった。

全体の59%を占める東アジア向けは、ベトナム、香港が好調に推移したものの、圧倒的シェアを占める中国が大きく減少し、東アジア全体として5%減（同4%減）となった。一方、シェア40%の民族衣装用の西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国、クエートが揃って増勢で推移し、西アジア全体として35%増（同31%増）の大幅な増加となった。

人絹織物は、数量で6%減(同8%減)、金額で4%減(同5%減)と数量、金額共に低調な推移となった。

シェア73%の東アジアは、最大市場の香港が増勢で推移したが、中国が大幅に減少し、東アジア全体として3%減(同6%減)となった。シェア14%の西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国が揃って増加推移となり、全体として85%増(同14%増)となった。一方、欧米市場は、EUが47%減(同29%減)の大幅減、米国は1%減(同14%減)の微減となった。

毛織物は、数量で15%減(同22%減)、金額で12%減(同22%減)と数量、金額共に2桁の減少となった。

地域的には、東アジアが95%とほぼ全量を占めている。中でも、圧倒的なシェアを占める持ち帰り用の中国、また香港、ベトナムが軒並み減少し、東アジア全体として16%減(同23%減)となった。

不織布の輸出は、数量で2%減(同3%増)、金額で7%減(同4%増)となった。

全体の54%を占める東アジアは、最大市場の中国、またベトナムは好調に推移したが、香港、韓国、台湾、タイが減少し、全体として19%減(同13%減)となった。

一方、欧米市場は、シェア35%の米国は40%増(同58%増)と、好調を維持したが、シェア7%のEUは37%減(同9%減)と大幅な減少となった。

コーテッド織物の輸出は、数量で横ばい(同3%減)、金額で6%減(同5%減)となった。

全体の81%を占める東アジアは、最大輸出先の中国が微増、香港、タイも好調に推移し、全体として4%増(同2%減)となった。欧米市場は、シェア6%のEUは23%減(同10%増)、シェア5%の米国は43%減(同47%減)と共に不振に終わった。

ニット生地の輸出は、数量で1%増(同8%増)、金額で4%増(同3%増)と数量、金額共に堅調な推移となった。

全体の約9割強を占める東アジア向けは、主要国では、最大市場の中国が横ばい、ベトナムは増勢推移となったが、香港、韓国、台湾、タイ、インドネシアは何れも減少推移となった。一方、欧米市場向けは、米国は大幅な増加が続いているが、EUは減少推移となっている。

アパレルの輸出は、金額で11%減(同13%減)と2桁の減少となった。

内容的には、布帛製衣類の外衣類は、米国、EU、中国が好調に推移したが、台湾、香港が減少し、金額で5%減(同11%減)となった。下着類は、台湾、韓国が大幅に増加し、中国、香港は低調に推移したが、金額で2%増(同4%増)となった。

一方、ニット製衣類は、外衣類は、中国、香港、米国が増加したが、台湾、韓国が減少し、金額で1%減(同横ばい)となった。一方、下着類は、米国は増加したが、韓国、中国、台湾、香港が低調な推移となり、金額で30%減(同25%減)と大幅な減少となった。

・原料（綿・糸）の輸出

<綿輸出>

合繊綿、スフ綿などの綿合計は、ナイロン綿が増加推移となった他は、主力のアクリル綿をはじめ、全般的に不振に推移し、全体では7%減の32,426トンとなった。金額についても3%減の7,736万ドルとなった。

<糸輸出>

糸は、合繊短糸、綿糸が増加推移となったが、人絹糸及び主力の合繊長繊維糸が不振に推移し、全体では3%減の10,597トン、金額についても3%減の6,952万ドルとなった。

2006年4月の原料（綿・糸）の輸出状況

単位：トン、千ドル、セント、%

	2006年4月				2006年1～4月			
	数量	前年 同月比	金額	単価	数量	前年 同期比	金額	単価
スフ綿	4,750	99	17,134	361	19,682	94	69,780	355
合繊綿	25,167	94	58,529	233	107,569	100	251,947	234
ポリエステル	3,828	88	6,008	157	15,769	98	23,956	152
アクリル	19,034	97	41,099	216	82,218	101	183,105	223
他合繊綿	2,305	88	11,423	496	9,582	91	44,885	468
人絹糸	837	92	5,569	665	3,803	90	27,244	716
合繊長糸	8,807	94	54,912	624	36,256	99	213,928	590
ナイロン	1,818	80	12,344	679	8,147	88	50,047	614
ポリエステル	3,212	91	12,812	399	13,123	98	51,480	392
他合長糸	3,777	108	29,756	788	14,985	107	112,401	750
綿糸	417	196	2,661	638	1,557	107	10,078	647

出所：財務省統計

・織・編物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出

4月の織物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出は、ナイロン織物も好調に推移したが、ポリエステル長繊維織物、綿織物、毛織物等の主要織物は揃って量的、単価的にも低調に推移し、織物トータルとして、数量で前年同月比7%減（1-4月前年同期比3%減）、金額では9%減（同11%減）となった。

なお、この織物トータルの中には含まれていない、ニット生地は堅調推移、コーテッド織物は

数量横ばいの金額減となった。

市場的には、織物トータルで、主力の東アジアは、主要国のうちベトナム、インドネシア、マレーシアが数量、金額共に前年同月を上回り健闘、またシンガポールは数量増の金額減となった。一方、最大市場の中国を始め、韓国、香港、台湾、タイ、フィリピンは数量、金額共に前年同月を下回った。

純輸出市場では、西アジアは、オイル景気もあり、サウジアラビア、アラブ首長国は何れも数量、金額共前年同月を上回り、好調を継続している。

一方、欧米市場は、EUが主力のポリエステル長繊維織物は量的に健闘したが、その他織物の不振により、数量、金額共に減少推移となった。米国は、量的には、ポリエステル長繊維織物を始め総じて減少推移となったが、単価が上昇し、金額では微増となった。

2006年4月の織・編物（絹・化合織・綿・毛）の輸出状況

単位：1000SM、1000\$、前年比は数量比%

	2006年4月			2006年1-4月		
	数量	金額	前年同月比	数量	金額	前年同期比
絹織物	718	10,686	104	2,751	37,783	115
人絹織物	6,582	18,236	94	22,119	69,530	92
スフ織物	698	2,556	75	3,298	11,452	80
合織（長）織物	44,548	80,276	91	164,602	302,026	99
ポリ（長）織物	34,852	59,156	90	124,172	216,760	97
ナイロン織物	5,642	10,945	109	20,199	36,232	114
合織（短）織物	13,594	26,428	108	57,124	107,635	106
ポリ（短）織物	12,527	24,992	107	53,268	100,927	107
綿織物	26,711	77,807	93	106,991	322,217	94
毛織物	2,562	16,211	85	8,980	55,377	78
コートド織物	1,670	34,297	100	5,366	112,723	97
ニット生地	10,804	47,698	101	57,855	179,394	108

（注）1. ポリエステル（長）、ナイロン（長）織物は、ポリエステル、ナイロンの重量が全体の85%以上の織物。

2. コートド織物の数量単位はトン。

・主要繊維二次製品の輸出

繊維二次製品の2006年4月の輸出は、金額（ドル）ベース（以下同じ）で、アパレルは布帛製下着が微増となった他は、いずれの品目も不振に推移し、全体では前年同月比11%減の28,157千ドルとなった。

他方、その他の品目については、漁網・その他の網・網地が2桁増、敷物が微減推移、細幅織物・紐類は減少推移となった。

2006年4月の主要繊維二次製品輸出状況

単位：千米ドル、金額：前年比%

	2006年4月		2006年1~4月	
	金額	前年同月比	金額	前年同期比
布帛製衣類・付属品	16,920	93	66,992	89
外 衣	11,326	95	40,949	89
下 着	3,391	102	15,729	104
スカーフ・マフラー	369	78	2,213	100
ニット製衣類・付属品	11,238	82	49,019	84
外 衣	3,273	99	15,981	100
下 着	5,648	70	24,239	75
敷 物	2,738	99	9,756	99
漁 網 ・ 網 ・ 網 地	5,196	146	13,934	110
細 幅 織 物 ・ 紐 類	14,839	92	54,962	93

2006年3月の繊維品輸入概況

1. 繊維製品計

3月の輸入は、金額が円ベース前年同期比121.6%（前月比は161.1%）、ドルベース同109.1%（前月比は161.9%）、数量（重量）同107.2%（前月比は155.6%）と、円金額が8ヶ月連続で増加、ドル金額と数量は3ヶ月ぶりに減少した前月から増加に転じた。前月比は、前月が中国の春節休暇の影響で少なかったこともあり金額、数量ともに大幅に増加した。

糸類は数量で前年同期比10.0%減と前月よりマイナス幅を拡大し10ヶ月連続で減少。内訳は、絹糸、毛糸、人織（短）糸が増加、綿糸、人織（長）糸、その他の糸が減少した。織物類は同2.2%増と3ヶ月ぶりに減少した前月から再び増加となった。絹織物、毛織物、黄麻織物、人織（長）織物、人織（短）織物、メリヤス生地、その他の織物が増加し、綿織物が減少した。衣類は同11.9%増と2ヶ月ぶりに増加。衣類を除くインテリア用品等の二次製品は同8.6%増と3ヶ月ぶりの減少となった前月から再び増加した。

前月は前年同期比で円金額が3.0%増加したものの、ドル金額が8.4%の減少、数量も8.6%の

減少となったが、今月は円金額が 21.6%増加したのをはじめ、ドル金額が 9.1%の増加、数量も 7.2%の増加となった。3月の為替相場は前年同月比 11.4%円安の 117 円 31 銭であった。ドル金額の内訳を見ると、糸類が 2.4%減少したものの、太宗を占める衣類は 10.0%、織物類は 7.8%、二次製品は 7.3%それぞれ増加し、繊維製品計では 9.1%の増加となった。

2. うち糸類

- 綿糸の輸入実績は、トンベースで前月比 12.6%、前年同月比も 26.2%の大幅減少となり 1981年7月以来、24年8ヵ月ぶりの低水準の輸入となった。これは、国内綿糸市況が下落していることに加えパキスタン等輸出国側も世界的に見て価額水準の低い日本向け輸出を減らしていることによるものと思われる。綿糸輸入の9割近くを占める純綿糸の輸入を前月に比較すると、国別では中国が前月の旧正月による落ち込みの反動もあり 62.9%と大きく増加したものの、首位のパキスタンが 19.4%、インドネシア 22.1%、インド 23.4%と上位3ヵ国が軒並み減少となった。番手別にみても、最も量的に多い20番手中心が 11.6%の減、30番手中心 11.9%、40番手中心 8.6%、40番手以上も 14.1%の減少となった。また、糸種別にみてもカード糸 18.3%、コマ糸 10.2%それぞれ減少となった。
- 毛糸の輸入実績は前年同月比重量ベース 0.5%の微増ながら5ヵ月ぶりの増加となった。糸種別に見ると、紡毛糸が同 17.7%増と3ヵ月連続の増加となったが、太宗を占める梳毛糸は同 0.6%減となった。国別では、トップシェアの中国が同 1.1%減で2ヵ月連続減少したが、第2位のマレーシアは同 7.9%の増加となった。この他の国では、前月同様にタイ、インド、ペルーなどからの輸入が減少した一方、台湾からは大幅に増加した。
- 人織糸の輸入実績は、トンベースで人織(長)糸が 05年2月以来の1万トン割れとなり前月比が3ヵ月連続の 2.7%減、前年同月比も3ヵ月ぶりに下回る 6.0%減となった。主要商品を前月に比較すると、米国を中心とするナイロン糸は3ヵ月連続で2,000トンは維持したものの 15.1%の減、主力商品の台湾からのポリエステル糸は 3.8%の増、また量的に少ない人絹糸は 13.5%の減少となった。一方、人織(短)糸は主力商品の T/C, T/R のインドネシアからのポリエステル紡績糸は 7.1%の減、中国、インドネシアからのアクリル紡績糸が 55.2%の増、インドネシアからのスフ糸も 20.1%の増となり、全体では前月比 9.2%増、前年同月比も3ヵ月ぶりプラスの 8.1%の増加となった。

3. うち織物類

- 綿織物の輸入実績は、面積ベースで主要供給国である中国からの輸入が綿糸同様前月の旧正月の落ち込みの反動増により前月比 32.5%の大幅増となったものの、前年同月比は国内市況の低迷もあり 10.3%の減少となり3ヵ月連続のマイナスとなった。国別で前月に比較すると輸入国3位のパキスタンが 18.8%の減少となったものの、全体の8割弱を占める中国が 44.4%の大幅増、2位のインドネシアも 6.0%の増加となった。品種別に

みると最も量的に多いポプリンがほぼ前月並となったものの、金巾がほぼ倍増、粗布・細布が5割強、綾織が5.8%それぞれ増加となった。

- 毛織物の輸入実績は、面積ベースで前年同月比12.3%増加し、2ヶ月連続での増加となった。中国からの輸入が同8.7%増、イタリアからの輸入が37.8%増と引き続き上位2ヶ国が共に増加したが、前月同様に第3位のイギリスからの輸入は同34.5%の大幅減となった。品種別では、紡毛織物が同1.8%増と10ヶ月ぶりに増加し、主力の梳毛織物も同13.1%増と2ヶ月連続で増加となった。
- 人織織物の輸入実績は、面積ベースで人織(長)織物が前月比16.8%増となり、前年同月比も8.1%増の17ヶ月連続のプラスとなった。品目別に前月に比較すると量的に少ないナイロン織物が15.6%の減少となったものの、主力商品のポリエステル織物が29.9%の大幅増、ポリプロピレンなどその他織物も4.3%の増加となった。国別に見ると2位の韓国が9.6%減少となったがポリエステル織物の急増により首位の中国が67.5%、3位の台湾も46.4%と大きく増加した。一方、人織(短)織物も主力の中国、インドネシアからのT/C、T/R織物のポリエステル織物が綿織物同様中国の旧正月の反動もあり32.3%の増、インドネシアを中心とするスフ織物も26.3%増加したことにより全体では前月比29.4%、前年同月比も僅かであるが1.3%のプラスとなった。

4. うち衣類

ニット製衣類が対前年同月比(枚数)で12.2%増、布帛製衣類も同14.8%増、身の廻り品も重量ベース6.9%増となり、衣類計で重量ベース11.9%増となった。ニット製衣類、布帛製衣類、身の廻り品ともに3ヶ月ぶりに減少した前月から一転増加、衣類計も2ヶ月ぶりの増加となった。

主要国別に見ると

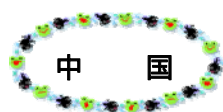
- 中国は対前年同月比(枚数)でニット製衣類が12.6%増加し2ヶ月ぶりに増加、布帛製衣類も14.3%増加し2ヶ月ぶりに増加、身の廻り品も重量ベース7.5%増で2ヶ月ぶりの増加となった。今年1~3月の衣類計(重量)のシェアは90.0%(金額ベースでのシェアは80.0%)。
- 韓国はニット製衣類が同22.9%増加、布帛製衣類は同162.6%増となり11ヶ月連続で1.5倍を超える大幅増加となった。ニット製衣類が3ヶ月ぶりに増加、布帛製衣類は12ヶ月連続で増加した。
- イタリアはニット製衣類が同28.1%減と15ヶ月連続で減少、布帛製衣類も同12.2%減と10ヶ月連続で減少。
- ベトナムはニット製衣類が同5.0%減と2ヶ月ぶりに減少、布帛製衣類は同4.2%増と

6ヶ月連続で増加した。

- 商品別には、ニット製衣類ではコート、スーツ、アンサンブル、ジャケット、ズボン、ドレス、スカート、アウターシャツ、セーター、スポーツウェア、下着類と全てのアイテムが増加。中でも、ジャケット、ドレス、スカートは対前年同月比（枚数）70～100%の大幅増となった。布帛製外衣類では紳士用が同 22.5%増、婦人用も同 15.3%増加した。紳士用では、コート、ジャケット、ズボン、下着類が増加、スーツは引き続き減少、婦人用は、コート、アンサンブル、ジャケット、ドレス、スカート、ズボン、ブラウスが増加、スーツ、下着類が減少となった。

前月は数量が 8.6%の減少、金額は円が 3.0%の増加、ドルが 8.4%の減少となったが、今月は数量が 7.2%の増加、金額は円が 21.6%の増加、ドルも 9.1%の増加となり、前年同月比で 10%を超える円安要因を差し引いても増加となった。今月も、中国の春節（旧正月）休みの影響が表れたものと思われる。

日本経済は景気回復が鮮明となり、繊維消費へも波及が期待される。加えて、昨年メンズ市場に大きな効果を及ぼした「クールビズ」には今夏も期待がかかるなど期待要因が見られる一方、原材料価格の上昇や中国での人件費アップ、人民元の切り上げなど懸念材料も少なくない。



2006 年第 1 四半期の繊維品輸出、高率の伸びを維持

- 欧米向けの伸びは鈍化、但し、全体としては高率の伸びを維持 -

中国の海関統計によれば、中国の 2006 年第 1 四半期の繊維品輸出は、前年同期比 23%増の 260 億 9,087 万ドルと、前年同期の 20%増を上回る高い伸びを記録している。

仕向国別では、特徴的な変化は、昨年同期には枠フリーにより、突出した伸びを記録した米国、EU の伸びが、新たな枠設定もあり、大きく鈍化しているのに対し、前年はマイナス推移であった香港、韓国、シンガポールの東アジア諸国が大幅増加に転じ、また、日本、ロシア、カザフスタンの東欧諸国、オーストラリア、アラブ首長国、カナダ、南アフリカ、バングラデシュ、インド等その他の主要国も軒並み増加推移となっていることである。

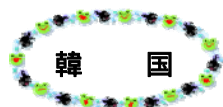
品目別では、原料関係は、綿類が合繊綿の増加を中心に 16%増、糸類が綿糸、合繊長繊維系の好調より 30%増、織物類は合繊長繊維織物が減少推移となったが、綿織物の好調より 9%増、また、全輸出の 61%と圧倒的なシェア占める衣料品の輸出は、ニット製衣料品が 32%増と高

い伸びを示し、布帛製衣料品も 18% 増になっている。

中国の 2006 年 1 - 3 月の繊維品輸出状況

単位：100 万ドル、%

	2005 年 1 - 3 月	前 年 同期比	2006 年 1 - 3 月	前 年 同期比
全世界	21,297	120	26,091	123
日 本	3,761	107	4,217	112
E U	3,679	151	4,076	111
香 港	3,003	93	3,563	119
米 国	3,178	178	3,314	104
韓 国	749	91	1,094	146
ロシア	512	113	777	152
オーストラリア	505	117	581	115
カナダ	395	154	532	135
アラブ首長国	445	109	523	118
シンガポール	195	75	393	202
カザフスタン	141	61	340	241
南アフリカ	229	132	302	132
バングラデシュ	218	120	300	137
インド	258	149	283	109
パナマ	210	144	252	120



2006 年第 1 四半期の繊維品貿易・輸出は 4% 減、輸入は大幅増加

< 輸出は前年比 4% 減の 29 億 7,809 万ドル >

韓国の通関統計によれば、2006 年第 1 四半期の繊維品輸出は、中国を始めとする東アジア諸国との競合の激化により、原料、織物、衣料品類が揃って、前年同期比 4% 減の 29 億 7,809 万ドルと今年も苦戦を余儀なくされている。

市場的には、シェア 54% を占める東アジア向けは横ばいの 16 億 220 万ドルに止まったものの、17% を占める北米が 10% 減の 5 億 484 万ドル、12% を占める欧州が 16% 減の 3 億 4,671 万ドルと、欧米市場向けが各々 2 桁の大幅後退となった。

主要国では、第 1 位市場の中国は 2% 減の 6 億 1,367 万ドル、続く米国が 10% 減の 4 億 7,867 万ドル、EU が 17% 減の 2 億 4,329 万ドルと上位 3 市場が不振で、以下ベトナムが 12% 増の 1 億 9,170 万ドル、香港が 17% 減の 1 億 7,146 万ドル、日本が横ばいの 1 億 6,247 万ドル、インドネシアが 25% 増の 1 億 6,012 万ドル、アラブ首長国が 8% 増の 8,777 万ドルの順となって

いる。

品目別輸出では、原料関係では、綿類の輸出は、数量で4%減の17万261トン、金額では13%減の2億1,818万ドルとなった。太宗品目はポリエステル綿を中心とする合繊綿で、数量で4%減の16万5,146トン、金額で13%減の2億678万ドルとなった。合繊綿の最大市場は米国で、数量で30%増の3万7,881トン、金額で16%増の4,343万ドルと数量、金額共に大幅増加、続く市場のEUは数量で1%増の3万4,416トン、金額で9%減の4,091万ドルと数量増の金額減、第3位の中国は数量で38%減の3万3,389トン、金額で46%減の4,298万ドルと数量、金額共に大きく減少し、これまでのトップ輸出市場から転落した。この3カ国で数量ベースとして全体の64%を占めている。

糸類の輸出は、数量で9%減の10万5,661トン、金額で12%減の3億1,926万ドルと数量、金額共に2桁の減少となった。太宗品目は合繊長繊維系で、ポリエステル長糸を中心に、数量で8%減の9万2,225トン、金額で14%減の2億5,289万ドルとなった。合繊長繊維系の最大市場は中国で、数量で18%減の1万6,922トン、金額で23%減の4,994万ドルと大きく後退、第2位はEUで、数量で1%減の1万4,201トン、金額で15%減の3,850万ドル、第3位の米国は数量で2%増の1万2,193トン、金額で4%減の2,842万ドルと数量増の金額減となった。

織物類の輸出は金額で9%減の6億2,672万ドルと不振推移となった。

中でも韓国繊維品輸出の代表的品目でありその動向が注目されるポリエステル長繊維織物は、数量で13%減の3億526万平方メートル(SM)、金額で15%減の2億7,259万ドルと引き続き低調な推移となり、回復の気配が見えない。

ポリエステル長繊維織物の主要輸出国別は、1位がアラブ首長国で9%増の3,364万SMと好調に推移したが、2位の中国は16%減の2,942万SM、3位の米国は30%減の2,768万SMと共に大きく後退した。4位はサウジアラビアで2%減の2,457万SMとなったが、5位のインドネシアは16%増の2,198万SM、6位のトルコは6%増の1,859万SMと何れも好調な推移となった。その他主要市場は、EU(1,813万SM:22%減)、香港(1,749万SM:25%減)、ベトナム(1,648万SM:18%増)等となっている。

その他主要織物類では、綿織物が8%減の1万4,201トン、合繊短繊維織物が2%減の7,972トン、人絹織物が33%減の3,696万SMと何れも減少推移となっているが、ニット生地は金額で9%増の6億2,768万ドルと唯一好調に推移しており、品目別で最大の輸出品目となっている。

衣料品の輸出は、布帛製衣料品が17%減の2億735万ドル、一方、ニット製衣料品も8%減の2億5,058万ドルと何れも減少推移となっている。

< 輸入は18%増の17億9,464万ドルと衣料品を中心に大幅増加 >

一方、韓国の繊維品の輸入は、主に中国からの衣料品輸入の増加により、前年同期比18%増の17億9,464万ドルと大幅に増加している。

地域別では、シェア 79%を占める東アジアは 25%増の 14 億 1,770 万ドル、シェア 12%の西欧が 4%増の 2 億 1,870 万ドルと増加推移、シェア 5%の北米は 27%減の 9,170 万ドルとなった。

国別では、最大輸入先の中国は 37%増の 9 億 9,067 万ドルと大幅に増加、EU が 3%増の 1 億 9,343 万ドル、日本が 4%減の 1 億 771 万ドル、米国が 28%減の 8,480 万ドル、インドが 19%増の 7,613 万ドル、インドネシアが 24%増の 6,263 万ドル、台湾が 12%減の 4,169 万ドル、ベトナムが 21%増の 3,888 万ドルとなっている。

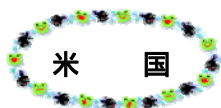
品目別輸入では、綿類の輸入は数量で 24%減の 7 万 7,292 トン、金額で 11%減の 1 億 6,463 万ドルと低調な推移となった。その大半は天然繊維原料の輸入である。

糸類の輸入は数量で 10%増の 13 万 4,599 トン、金額で 14%増の 3 億 8,270 万ドルと数量、金額共に 2 桁の増加となった。内訳は、最大品目の綿糸の輸入が数量で 17%増の 5 万 5,890 トン、金額で 30%増の 1 億 4,877 万ドルと大きく伸びたが、合繊長繊維糸は、数量で 7%増の 3 万 1,228 トン、金額で 1%減の 8,783 万ドルと数量増の金額減となった。

その他の糸では、合繊短繊維糸が数量で 5%増の 3 万 2,055 トン、金額で 6%増の 7,785 万ドル、人絹糸は数量で 23%減の 6,794 トン、金額で 12%減の 2,932 万ドルとなった。

織物類の輸入は金額で 2%増の 2 億 5,281 万ドルの微増となった。主要織物の内訳は、綿織物が数量で 8%減の 2 万 2,845 トン、金額で 2%増の 1 億 1,023 万ドルと数量減の金額増、合繊長繊維織物が数量で 31%増の 6,734 万 SM、金額で 3%減の 3,538 万ドルと数量増の金額減、合繊短繊維織物は数量で 14%減の 1 万トン、金額で 5%減の 3,775 万ドルとなった。

また衣料品の輸入は、中国からの輸入が急増しており、ニット製衣料品が 32%増の 2 億 3,149 万ドル、布帛製衣料品は 37%増の 5 億 3,227 万ドルと何れも大幅な増加となっている。



2006 年 3 月の繊維品輸入、2 カ月連続の減少

2006 年 3 月の米繊維品輸入は、アパレルが前月に続き減少となり、ノン・アパレルも微増にとどまったため、全体で 0.5%減となった。また、2006 年 1~3 月の輸入は 0.4%増とほぼ横ばいとなっている。

【3 月の輸入】

米商務省が発表した 2006 年 3 月の米繊維品輸入は、40 億 4,800 万 SME (平方メートル換算) で前年同月比 0.5%減となり、前月 (5.7%減) に続きマイナスとなったが、減少幅は縮小している。3 月の輸入のうち、ノン・アパレル (糸、織物、その他繊維製品) が 0.9%の微増、アパレルが 2.4%の減少と、いずれも低調であった。

地域別輸入では、太宗供給国の中国は前月の大幅減 (10.6%減) から 2.1%増へと若干回復

したが、伸び率は前年同月の 36.2% から大きく鈍化している。

米国の繊維品輸入推移

単位：100万SME、%

	ノン・アパレル		アパレル		合計	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
2000年	16,829	16.0	16,035	13.7	32,864	14.9
2001年	16,708	0.7	16,103	0.4	32,812	0.2
2002年	21,033	25.9	17,256	7.2	38,288	16.7
2003年	23,363	11.1	18,864	9.3	42,227	10.3
2004年	26,985	15.5	19,951	5.8	46,936	11.2
2005年	28,829	6.8	22,010	10.3	50,839	8.3
1月	2,247	5.0	1,646	8.5	3,892	6.4
2月	2,208	17.3	1,759	2.2	3,968	19.4
3月	2,340	4.9	1,728	7.0	4,069	5.8
4月	2,339	1.5	1,550	11.7	3,888	4.4
5月	2,544	8.3	1,704	24.2	4,248	14.2
6月	2,488	1.4	2,065	19.5	4,552	7.1
7月	2,352	0.1	1,991	7.3	4,344	3.3
8月	2,592	8.2	2,160	13.3	4,752	10.4
9月	2,489	12.0	2,127	8.9	4,617	9.6
10月	2,576	13.8	1,917	6.3	4,492	9.3
11月	2,420	9.8	1,770	8.3	4,190	9.2
12月	2,235	5.7	1,596	5.9	3,830	5.8
2006年	7,015	3.1	4,972	3.1	11,987	0.4
1月	2,502	10.9	1,698	3.2	4,200	7.6
2月	2,152	2.5	1,587	9.8	3,739	5.7
3月	2,361	0.9	1,687	2.4	4,048	0.5

注：前年比は増減、 は減少。 出所：米商務省（DOC）

【1～3月の輸入】

2006年1～3月の米繊維品輸入は、119億8,700万SME（平方メートル換算）で前年同期比0.4%の微増にとどまり、前年1～3月期の10.2%増から大幅に減速している。この1～3月の輸入のうち、ノン・アパレルは3.1%増、アパレルは3.1%減と、明暗を分けている。

1～3月の主要地域別輸入状況は、以下の通り。

主要地域別輸入では、いわゆるビッグ4（中国、韓国、台湾、香港）とアセアンに加え、その他地域のパキスタン、インドといったアジア地域が伸びているが、米近隣のNAFTA（北米自由貿易協定）パートナー（メキシコ、カナダ）とカリブ海沿岸諸国（CBI）は低迷している。

- ビッグ4からの輸入は3.1%増と堅調に推移している。しかしながら、伸び率は前年同期の29.7%から著しく後退している。これは、主として、ビッグ4の太宗国の中国が米繊維輸入規制により3.5%の若干増にとどまったことによる。それでも、中国からの輸入は全体の

33%を占め、他の繊維供給国を凌駕している。

一方、他のビッグ4構成国では、韓国と台湾は織物が活発に推移しそれぞれ4.8%、1.4%の増加となったが、香港は逆に織物の不振で7.7%減となった。

米国の繊維品輸入推移（主要地域・国別）

単位：100万SME、%

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年 1-3月	前年 同期比
全世界	32,812	38,288	42,227	46,936	50,839	11,987	0.4
NAFTA	7,558	7,722	7,238	7,373	6,892	1,540	10.9
メキシコ	4,290	4,335	3,926	4,101	3,883	867	7.1
カナダ	3,268	3,387	3,312	3,272	3,009	673	15.5
CBI	3,704	3,830	4,046	4,168	4,169	880	13.9
ホンジュラス	1,032	1,099	1,165	1,209	1,262	272	8.2
エルサルバドル	768	817	895	895	897	151	31.6
ドミニカ共和国	773	743	758	772	725	145	16.8
ビッグ4	5,911	9,348	12,633	16,128	20,595	4,512	3.1
中国	2,211	4,963	8,288	11,662	16,766	3,601	3.5
韓国	1,383	2,032	2,097	2,301	2,028	515	4.8
台湾	1,224	1,391	1,356	1,302	1,083	256	1.4
香港	1,092	962	892	862	721	140	7.7
アセアン	4,390	4,766	4,980	5,140	5,145	1,431	16.7
タイ	1,308	1,316	1,098	1,114	1,052	268	2.7
インドネシア	1,165	1,215	1,151	1,275	1,354	400	20.3
フィリピン	916	817	794	711	643	170	7.4
ベトナム	33	358	827	905	950	269	27.1
カンボジア	389	474	561	673	740	223	34.4
EU（15カ国）	1,868	2,055	2,059	2,063	1,912	450	13.0
イタリー	521	518	533	462	385	87	20.4
ドイツ	457	551	484	479	453	109	13.9
その他	9,381	10,567	11,272	12,064	12,126	3,173	3.5
パキスタン	2,189	2,537	2,690	2,970	3,291	891	18.1
インド	1,250	1,545	1,666	1,915	2,335	667	12.3
バングラデシュ	1,169	1,150	1,110	1,109	1,314	369	14.8
トルコ	871	1,068	1,026	982	844	172	24.8

アセアンからの輸入では、主力のインドネシアに加え、新興のカンボジアとベトナムがいずれも20%以上の大幅な増加となり、またタイとフィリピンも堅調に推移したことから、アセアン全体としては16.7%増と大きく伸びた。なお、アセアンからの輸入は衣料品が中心で、全体の73%を占めている。

一方、米近隣のNAFTAパートナーからの輸入では、衣料品中心のメキシコは7.1%減、糸・織物主体のカナダは15.5%減となり、両国合わせて10.9%の大幅減となった。

また、CBIからの輸入は、主要国のホンジュラス、エルサルバドル、ドミニカ共和国がいずれも大幅な減少となり、全体で13.9%の大幅減となった。CBIからの輸入は、アパ

レルが 98%と殆どを占めている。

EU(15 カ国)からの輸入は、主力のイタリーとドイツが共に織物の不振でそれぞれ 20.4%、13.9%の大幅な減少となり、全体で 13.0%減となった。

上記の主要地域に含まれない「その他地域」からの輸入では、パキスタンが 18.1%、インドが 12.3%、バングラデシュが 14.8%のそれぞれ大幅増となった。その他地域でも、東アジア諸国からの輸入が「ポスト・クォータ」の恩恵を享受して活発に推移している。

2006 年 4 月の米大手小売店販売、2 年ぶりの 7%の高い伸び

米国の国際ショッピング・センター協会 (ICSC) が纏めた「米チェーン・ストア販売動向レポート」によると、米大手小売店の 2006 年 4 月の売上高は前年同月比 (既存店比、以下同じ) 6.6%増となり、前月 (1.9%) 及び前年同月 (2.2%) の伸び率を大きく上回った。

米国の 2006 年 4 月の大手小売店売上高は、ガソリンの高騰による消費者の購買意欲の減退が懸念されたが、いわゆる“ イースター・シフト ” (今年のイースターは、昨年 3 月 27 日から 4 月 16 日にシフト) と春らしい暖かい天候を反映して、イースター・ホリデー商品および春物衣料などの季節商品の需要が伸び、2004 年 3 月の 6.8%増以来、約 2 年ぶりの高い伸び率となった。

衣料品を主力とするストアの販売状況は、以下の通り。

大手百貨店の 4 月の販売は、高級百貨店のみならず、中級百貨店も、一部を除き、順調に推移し、全体として 5.3%の高い伸び率となった。

高級百貨店の販売は、ニーマン・マーカスが 9.5%増、ノードストロムが 7.3%増と順調に伸びた。このうち、ニーマン・マーカスは、地域では南東部と西海岸の各ストア、商品では

米大手小売店の売上高の伸び率推移

単位：%

年月	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
1	5.7	4.8	5.2	1.8	5.9	3.6	5.0
2	6.0	3.1	6.2	0.9	6.8	4.9	3.2
3	2.1	1.7	6.4	-0.2	6.8	4.1	1.9
4	7.9	3.8	1.6	3.1	3.7	2.2	6.6
5	5.0	1.5	3.4	2.0	5.4	2.9	
6	3.7	2.8	5.1	2.4	2.6	5.2	
7	4.4	3.4	2.6	4.2	3.8	3.6	
8	4.2	3.6	1.6	4.9	1.3	3.6	
9	4.3	0.9	1.5	5.8	2.4	4.0	
10	3.8	2.3	3.1	2.4	4.1	4.4	
11	4.0	2.1	0.0	3.3	1.7	3.5	
12	0.7	2.2	1.0	4.3	2.7	3.2	
年間平均	4.0	2.6	3.1	2.9	3.8	3.9	

注：伸び率は前年同月比 (既存店比) の増減を示す。

女性用のアパレル、シューズ、宝飾品、デザイナー・ハンドバッグ、男性用衣料品が好調であった。

一方、サクスは全体では0.8%の微増にとどまったが、女性と男性用コンテンポラリー・アパレル、女性用のモダレートレインジ・スポーツエア、デザイナーアパレル、ドレス、インティメートアパレル、イブニングウエア、ジュニア用アパレル、男性用服飾品がベスト・セール品目であった。

中級百貨店では、コールズが13.4%増、ディラードが10.0%増、J.C.ペニーが2.6%増と伸びた。このうち、コールズは、ニットトップス、スカート、ショーツ、カプリパンツ、水着が大きく伸びた。また、ディラードは、地域では西部、商品では子供・ジュニア・男性用アパレルが全体の平均伸び率を大きく上回り、J.C.ペニーは、地域では南東部と西部、商品では子供用品、ファミリー・シューズ、男性用アパレルが好調であった。

一方、メイシーやブルーミングデイルズを傘下に持つ、フェデレーテッドは0.8%の微減となった。同社は、「4月の販売減は、傘下百貨店メイシーの毎年4月に行われている販促イベントが今年は5月にずれ込んだため」と説明している。

大手衣料品専門店チェーンの販売は、春物衣料品の需要が回復し、全体として5.9%の大幅増となった。

特に若者向け衣料品専門店チェーンが好調で、アメリカン・イーグルが19.0%増、アバクロンビー&フィッチが17.0%増、パシフィック・サンウェアが14.0%増と二桁増が続出した。これらの10代の若者向け衣料品を中心とするストアでは、特にデニムパンツ、ショーツ、フリース、Tシャツ、タンクトップ、インティメートアパレルが売れ筋商品であった。

また、ギャップに次ぐ大手衣料品専門店チェーンのリミテッド・ブランドも9.0%増と順調に推移した。同社傘下では、ビクトリアズ・シークレット(女性用下着専門店)が12%増、バス・

米主要小売店の2006年4月の販売状況

単位：100万ドル、%

小 売 店 名	売 上 高	
	前年同月比	
<百 貨 店>		
ディラード	563	10.0
フェデレーテッド	1,878	-0.8
J.C.ペニー	1,163	2.6
コールズ	1,136	13.4
ニーマン・マーカス	348	9.5
ノードストロム	584	7.3
サクス	245	0.8
<衣料品専門店チェーン>		
アバクロンビー&フィッチ	207	17.0
アメリカン・イーグル	179	19.0
アン・テラー・ストア	213	10.5
エアロポステール	83	8.4
ギャップ	1,230	-3.0
リミテッド・ブランド	653	9.0
メンズ・ウエアハウス	135	8.8
パシフィック・サンウェア	94	14.0
タルボット	166	10.8
<ディスカウント・ストア>		
ターゲット	3,974	10.4
ウォル・マート	25,871	6.8

アンド・ボディワークス（バス商品専門店）が8%増、エクスプレス（女性用衣料品専門店）が6%増となった。

一方、衣料品専門店チェーン最大手のギャップは、引き続き客足が低調で、3.0%の減少となった。傘下ストアでは、バナナリパブリックが1%の微増にとどまり、オールドネイビーは6%減、ギャップ・ストアは2%減となった。

キャリアウーマン向け衣料品専門店チェーンは順調に推移し、アン・テラー・ストアが10.5%、タルポットが10.8%のそれぞれ大幅な増加となった。このうち、アン・テラー・ストアは、ドレス、スーツ、スカート、シティ・ショーツなどが好調であった。

大手ディスカウント・ストアの4月の販売は、全体で7.4%増と大きく伸びた。2大ディスカウント・ストアのターゲットは10.4%増、ウォル・マートは6.8%増となった。

このうち、世界最大の小売企業であるウォル・マートの首脳は、4月の販売について「燃料費の高騰といった暗い影も、家族用衣料品や玩具類等のイースター・ギフト用品への消費者の旺盛な需要で吹き飛ばされたようである」と形容している。

また、ターゲットでは、イースター・ギフト用の玩具や子供服に加え、ライバルのウォル・マートでは買えないカジュアルウエアの“Mossimo”などの新規ブランド商品への顧客の好反応が売り上げを押し上げた。

米国の対中繊維規制品目枠消化状況（5月23日現在）

2006年5月23日現在の中国の対米規制品目の枠消化状況は、以下の表のとおり。

規制期間の約半年を経過しているが、現時点で30%を消化している品目は無く、全体的に低調な消化推移となっている。

	Ca.No.	商品名	単位	規制枠	輸入実績	消化率
1	200/301	綿・化合繊縫い糸、コームした綿糸	k g	7,529,582	651,396	8.7%
2	222	綿・化合繊ニット生地	k g	15,966,487	3,372,441	21.1%
3	229	綿・化合繊製特殊用途織物	k g	33,162,019	3,040,979	9.2%
4	332/432/632ptt	綿・毛・化合繊製靴下及び乳幼児用靴下	d p	64,386,841	17,058,276	26.5%
	332/432/632pt b	上記の内枠（長靴下を除く）	d p	61,146,461	16,777,883	27.4%
5	338/339pt	綿製男子用ニットシャツ及び女子用ニットシャツ、ブラウス	d z	20,822,111	2,266,349	10.9%
6	340/640	綿・化合繊製布帛男子・男児シャツ	d z	6,743,644	1,066,420	15.8%
7	345/645/646	綿・化合繊製男女セーター	d z	8,179,211	173,704	2.1%
8	347/348	綿製男子・女子用ズボン	d z	19,666,049	3,333,452	17.0%
9	349/649	綿・化合繊製ブラジャー	d z	22,785,906	3,780,775	16.6%
10	352/652	綿・化合繊製下着	d z	18,948,937	1,955,109	10.3%
11	359s/659s	綿・化合繊製水着	k g	4,590,626	1,133,378	24.7%
12	363	綿製テリー及びパイルタオル	no	103,316,873	23,302,018	22.6%

13	443	毛製男子・男児用スーツ	no	1,346,082	250,772	18.6%
14	447	毛製男子・男児用ズボン	dz	215,004	27,176	12.6%
15	619	ポリエステル長繊維織物	m ²	55,308,506	2,182,568	3.9%
16	620	その他合繊長繊維織物	m ²	80,197,248	3,121,632	3.9%
17	622	グラスファイバー織物	m ²	32,265,013	3,224,030	10.0%
18	638/639pt	化合繊製男子ニットシャツ及び女子ニットシャツ、ブラウス	d z	8,060,063	986,707	12.2%
19	647/648pt	化合繊製ズボン	d z	7,960,355	1,374,406	17.3%
20	666pt	化合繊製窓用ブラインド及びシェイド	k g	964,014	26,609	2.8%
21	847	絹混紡・交織及び麻等のズボン	d z	17,647,255	4,847,424	27.5%

出所：O T E X A

米国・木製梱包材規制を強化

- 現地での処理不可、違反はすべて積戻し -

日本荷主協会は「今年7月5日から米国向けの木製梱包材輸出の規制が強化される」と注意を呼びかけている。同日以降、違反が見つかった場合は、従来のように現地における消毒ないし廃棄処理が認められず、すべての貨物を積戻し・再輸出する仕組みに改められる。

同協会によると、米国の規則ではコンテナのダンネージ材に至るまで、規則上も運用上も、すべての木製梱包材に認証マークを付けることが必要となるが、実際の貿易手続の中で、この条件を満たすことは極めて困難とみられる。

このほど荷主協会が訪米し、米国の認証団体である全米木材パレット梱包協会（NWPCA・Wooden Pallet Container Association）等と意見交換を行い、その際「（NWPCA）側に、こんなことは不可能なはずだが、なぜ規則を変更しないのかと迫ったが、米国税関や商務省はセキュリティ問題、BSE問題等で手がいっぱい、今のところ聞く耳もたずとの回答であった」という。

荷協は「サプライチェーンマネジメントの厳しい自動車部品や組み立て部品が、たった1つのダンネージ木片のために積戻しになるなどということの無いように注意が必要」と強調するとともに、有効なダンネージ対策として、

木製ダンネージを使用しない。ロープ、プラスチック、ワイヤー、テープなどで行う、木材の場合であれば、ベニヤ、LVL（Laminated Veneer Lumber）、集成材のような加工木材のみにする、

未加工材を使用する場合は、きちんと消毒処理し、IPPC（International Plant Protection Convention・国際植物保護条約）マークを付ける、

少なくともコンテナのドアを開けてすぐに見える場所にマークをすべて付けておく、

船積書類に木製梱包材やダンネージは消毒処理してIPPCマーク付きであることなど記載する、これら5点を挙げている。



EUの対中繊維規制品目枠消化状況(5月24日現在)

2006年5月24日現在の中国の対EU規制品目の枠消化状況は次のとおり。

米国と同様、現在のところ、I/L、E/L発給量ともに、フラックス・ラミー系を除き、高率の消化率の品目は見当たらず、全体として低調な推移となっている。

Ca.No	単位	品目詳細	枠	I/L発給量	枠消化率(%)	E/L発給量	枠消化率(%)
2	トン	綿織物(ガーゼ、テリー、細幅、パイル、シェニール、チュール及びその他ネット生地を除く)	61,948	15,649	25.26	19,639	31.7
4	1000枚	ニット製下着(シャツ、T-シャツ、ポロ、プルオーバー(毛製は除く))	540,204	103,839	19.22	138,418	25.62
(4C)	1000枚	上記4の内枠(子供用)	45,017	10,008	22.23	13,474	29.93
5	1000枚	ニット製ジャージー、プルオーバー、カーディガン、ジャンパー、アノラック	189,719	17,085	9.01	31,541	16.63
6	1000枚	布帛製男子用パンツ、ショーツ、ブリーフ(水泳パンツ、ズボンを除く)、女性用ズボン、スラックス	338,923	54,513	16.08	75,812	22.66
7	1000枚	女性用ブラウス、シャツ、半袖ブラウス	80,493	17,381	21.59	23,925	29.72
20	トン	布帛製ベッドリネン	15,795	3,303	20.91	4,587	29.04
26	1000枚	女性用ドレス	27,001	5,132	19.01	6,864	25.42
31	1000枚	ブラジャー	219,882	46,325	21.07	62,621	28.48
39	トン	テーブルリネン、トイレットリネン、キッチンリネン (綿製テリータオルは除く)	12,349	1,495	12.10	2,139	17.32
115	トン	フラックス・ラミー系	4,740	1,710	36.07	2,461	51.92

(注) I/L発給量はEU当局、E/L発給量は中国当局

(出所) EU統計局(SIGL)

組合関係の会議と催事

【2006年5月】

輸出入

- .合同理事会（輸出組合・第27回、輸入組合・第338回）開催。
- .通常総会後の輸出入組合「合同懇親会」開催。

輸出

- .「第7回（2006年度）通常総会」開催。

輸入

- .「第43回（2006年度）通常総会」開催。
- .「インドTEXPROCILミッションと輸入組合との懇談会」開催
- .「インド・タイからの繊維輸入に関する調査結果報告会」開催。

2日（火）

輸入（大阪）「寝具インテリア委員会」（吉田委員長）委員によるインテリアライフスタイル展出展社打合せが行われた。

9日（火）

輸入（大阪）「日本黄麻製品輸入協議会」（花田会長）第24回（平成18年度）通常総会が開催され、2005年度（平成17年度）第23期事業報告書及び貸借対照表、収支決算書、剰余金処分案承認 役員改選 2006年度（平成18年度）第24期事業計画及び収支予算書承認、について各々審議が行われ承認された。

11日（木）

輸入（大阪）「第25回綿委員会」（砂山委員長）が開催され、委員長交替 インドTEXPROCIL訪日ミッションの受入れ、について審議と意見交換が行われた。
（東京）アパレル委員会打合せが行われた。

12日（金）

輸入（大阪）「インド・タイからの繊維輸入に関する調査結果報告会」が開催され、インド/神山主任研究員、タイ/古宮主任研究員よりそれぞれ調査報告が行われたのち、質疑応答が行われた。

16日（火）

輸入（東京）「インド・タイからの繊維輸入に関する調査結果報告会」が開催され、インド/神山主任研究員、タイ/古宮主任研究員よりそれぞれ調査報告が行われたのち、質疑応答が行われた。

22日（月）

輸入（大阪）インドTEXPROCIL（インド綿製品輸出振興協会）ミッション（Patodia 団長）と輸入組合（足立副理事長）との懇談会を開催、双方の団長挨拶の後、インド側基調報告と日本側基調報告に続き、活発な意見交換が行われた。
（尚、22日（月）～26日（金）の一週間にわたり当該来日ミッションの受入れを輸入組合が行い、全日程をアテンドした。）

23日(火)

輸入(東京)中国国際貿易促進委員会山東省分会・劉方会会長以下3名の代表団が来所し、今後の同委員会と輸入組合との協力について意見交換が行われた。

19日(水)

輸出入(大阪)中国国際貿易促進委員会山東省分会・劉方会会長以下3名の代表団が来所し、今後の同委員会と輸出入組合との協力について意見交換が行われた。

29日(月)

輸出(東京)「第7回(2006年度)通常総会」(議長:足立理事長代行)が東京會館で開催され、平成17年度事業報告書及び収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、各案承認に関する件、平成18年度事業計画書及び収支予算書案承認に関する件、平成18年度における加入金、賦課金の額並びにその徴収の時期、方法案の承認に関する件、役員の任期満了に伴う役員改選の件について審議が行われた。

輸入(東京)「第43回(2006年度)通常総会」(議長:足立理事長代行)が東京會館で開催され、2005年度第43期事業報告書、収支計算書、貸借対照表、財産目録、正味財産増減計算書、各案承認に関する件、2006年度第44期事業計画及び収支予算書案承認に関する件、任期満了に伴う役員改選の件、その他、について審議が行われ各案承認された。

輸出入(東京)1.「輸出組合・第27回理事会」、「輸入組合・第338回理事会」を同所にて開催、正副理事長、専務理事、常務理事の選任が行われた。
2.引続き同所において、輸出組合と輸入組合の「合同懇親会」が開催され、役員、組合員、委員、当局など関係者が参加された。

6月のスケジュール(6月1日現在)

1日(木)	輸出入	(大阪)「繊維の基礎知識」研修会
2日(金)	輸出入	(大阪)「繊維の基礎知識」研修会
7日(水)	輸入	(東京)「第67回アパレル委員会」及びミッション参加者打合せ
8日(木)	輸入	(東京)「第63回貿易制度専門委員会」「FTA検討会」
9日(金)	輸出	(大阪)「第28回書面理事会」
	輸入	(東京)「貿易実務の基礎研修会」
13日(火)	輸入	(東京)「第1回組合運営に関するタスクフォース」
14日(水)	輸入	(東京)1.「インテリアライフスタイル」展出展(寝具インテリア委員会)(6/14~16) 2.「第89回寝具インテリア委員会」
	輸入	(名古屋)「貿易実務の基礎研修会」
15日(木)	輸入	(東京)「貿易実務の基礎研修会」
17日(土) ~25日(日)	輸入	(欧州)アパレル委員会海外派遣ミッション(アイルランド・スコットランド)
21日(水)	輸入	(大阪)JICA貿易促進コース研修員来所
28日(水)	輸入	(東京)第141回企画委員会

輸出入

組合業務報告

- 輸出組合・第 7 回通常総会、輸入組合・第 43 回通常総会を開催 -

輸出組合第 7 回通常総会の概要

輸出組合の第 7 回通常総会が、5 月 29 日（月）午後 3 時半より、東京會館・12 階ロイヤルルーム（東京都千代田区丸の内 3 - 2 - 1）において、足立副理事長兼理事長代行及び各役員並びに組合員多数が出席して開催された。

総会の議案は次のとおりで、いずれも満場一致をもって承認された。

第 1 号議案：平成 17 年度事業報告書及び収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、各案承認に関する

第 2 号議案：平成 18 年度事業計画書並びに収支予算書案承認に関する件

第 3 号議案：平成 18 年度における加入金、賦課金の額並びにその徴収の時期、方法案承認に関する件

第 4 号議案：役員の任期満了に伴う役員改選の件

輸入組合第 43 回通常総会の概要

輸入組合の第 43 回通常総会が、5 月 29 日（月）午後 4 時半より、東京會館・12 階ロイヤルルーム（住所：同上）において、足立副理事長兼理事長代行及び各役員並びに組合員多数が出席して開催された。

総会の議案は次のとおりで、いずれも満場一致をもって承認された。

第 1 号議案：2005 年度（平成 17 年度）第 43 期事業報告書、収支計算書、貸借対照表、財産目録、正味財産増減計算書、各案承認に関する件

第 2 号議案：2006 年度（平成 18 年度）第 44 期事業計画及び収支予算書案承認に関する件

第 3 号議案：任期満了に伴う役員改選の件

合同理事会

通常総会終了後、東京會館・12 階カトレアルーム（住所：同上）において、輸出組合第 27 回理事会と輸入組合第 338 回理事会が合同開催され、以下の通り、両組合の平成 18・19 年度の理事長、理事長代行、副理事長、専務理事、常務理事が選任され、輸入組合の顧問が委嘱された。

新正副理事長・専務理事・常務理事、顧問

(敬称略・社名ABC順)

理事長	山本憲一	(三井物産株)	(出・入)
副理事長	岩竹常博	(三井物産株)	(出・入)
(理事長代行)			
副理事長	中西悦朗	(伊藤忠商事株)	(出・入)
〃	足立 哲	(丸紅株)	(出・入)
〃	矢野雅英	(三菱商事株)	(出・入)
〃	西田義博	(西田通商株)	(出・入)
〃	北野 弘	(NI帝人商事株)	(出・入)
〃	田中和夫	(株三陽商会)	(出・入)
〃	米村太一	(双日株)	(出・入)
〃	大塚隆平	(住金物産株)	(出・入)
〃	中山 純	(豊田通商株)	(出・入)
〃	八木雄三	(八木通商株)	(出・入)
専務理事	内海博基	(事務局)	(出・入)
常務理事	小村恒夫	(事務局)	(出・入)
〃	中西正和	(事務局)	(出)
顧 問	岩本純治	(伊藤忠商事株)	(入)
〃	安田耕一郎	(丸紅株)	(入)
〃	熊谷直彦	(三井物産株)	(入)
〃	高橋正治	(三井物産株)	(入)
〃	鈴木正隆	(三井物産株)	(入)
〃	垣内素一	(ティーケーインターナショナル株)	(入)
〃	山本 宏	(事務局)	(入)

* 「出」は輸出組合、「入」は輸入組合

懇親会

午後5時半より、東京會館・12階ロイヤルルームに於いて、輸出組合・輸入組合合同で懇親会が以下の次第で開催された。懇親会には、両組合の役員・組合員・委員、当局、報道関係者など、約90名が参加された。

1. 開 会 池西 企画委員長代理
2. 挨 拶 足立(前)副理事長兼理事長代行
山本(新)理事長
3. 来賓挨拶 経済産業省製造産業局 平工次長
4. 乾 杯 岩竹(新)副理事長

通常総会懇親会写真



足立（前）副理事長挨拶



山本（新）理事長挨拶



来賓挨拶 経済産業省・平工次長



岩竹（新）副理事長乾杯



通常総会 会場風景

輸出入

組合業務報告

「繊維の基礎知識」研修会を開催（大阪地区 / 輸出入組合）

日本繊維輸出組合、日本繊維輸入組合および社団法人テキスタイル倶楽部は、組合員・会員各位の若手社員・新入社員に対する教育補完の一環として、6月1日、2日の両日、輸出繊維会館中地階（B M）ホール（大阪市中央区備後町）にて、以下の通り、「繊維の基礎知識」（被服素材、縫製、染色加工等の基礎知識）研修会を開催した。

研修会参加者は、1日が約160名、2日が150名と多数に上り、盛会裏に終了した。

「繊維の基礎知識」研修会（大阪地区）

1. 日 時：平成18年6月1日(木)、2日(金) 午後1時～4時
2. 場 所：輸出繊維会館中地階（B M）ホール（大阪市中央区備後町3丁目4-9）
3. 講師及び研修項目

第1日 6月1日(木) 午後1時～4時
 (財)日本繊維製品品質技術センター 西部事業所 課長 舟木 圭氏
 被服素材について
 繊維・糸の種類、織物・ニットの種類
 縫製について
 布帛の縫製、ニットの縫製

第2日 6月2日(金) 午後1時～4時
 (財)日本繊維製品品質技術センター 西部事業所 課長 大井誠治氏
 染色加工について
 性能試験と品質基準及び安全性
 製品に必要な品質基準
 クレーム事例と対策

組合業務報告

- 「日本繊維輸入組合とインド TEXPROCIL との懇談会」開催概要 -

日本繊維輸入組合

インド TEXPROCIL(THE COTTON TEXTILES EXPORT PROMOTION COUNCIL/インド綿製品輸出振興協会)訪日ミッションが来日、5月22日(月)～26日(金)の間、大阪、京都、名古屋にて関係機関と企業を訪問し、日本の繊維輸入状況と繊維市場状況について調査を行った。当該ミッションの全日程に関して輸入組合が受入れを行った。5/22(月)には大阪にてミッションと輸入組合との懇談会を開催したが、概要は以下のとおり。

日本繊維輸入組合とインド TEXPROCIL との懇談会概要

- 一、日 時：2006年5月22日(月) 11:00～14:00
- 二、場 所：大阪、輸出繊維会館 B M会議室
- 三、出席者：インド側、日本側出席者(別紙)
- 四、協議要旨：
 1. 日本側/足立哲団長 挨拶
 2. インド側/Mr.BK Patodia 団長 挨拶
 3. 基調報告
 - (インド側)「TEXPROCIL 紹介とインドの繊維産業」(Mr.P Malik 副団長)
 - (日本側)「日本の綿糸・綿織物輸入状況」(砂山綿委員長)
 - 「日本のインテリア繊維製品輸入状況」(吉田寝具インテリア委員長)
 4. 意見交換《自由討論》

以 上

LIST OF TEXPROCIL MISSION

No	Name	position and Company	Product exported
1	Mr B K Patodia	Chairman, TEXPROCIL Managing Director & Vice Chairman of GTN Textiles	Cotton Yarn
2	Mr. Prem Malik	Deputy Chairman TEXPROCIL	Cotton Fabrics
3	Mr. V.S.Velayutham	Managing Director Sri Gomathy Mills P Ltd	Cotton Yarn
4	Mr. Manikam Ramaswami	Chairman Loyal Textile Mills Ltd	Cotton Yarn and Fabrics
5	Mr. Shishir Jaipuria	Managing Director Ginni Filaments Ltd	Yarn
6	Mr. Anurag Dalmia	Director GHCL Limited	Yarn and Home Textiles
7	Mr. Govindaswamy Kannappan	Chairman & Managing Director Sharadha Terry Products Ltd	Terry Towels

8	Mr. Pramod Kumar Gothi	Managing Director Morarjee Textiles Ltd	Fabrics
9	Mr. Ujwal Lahoti Ramvilas	Executive Director Lahoti Overseas Ltd	Yarn
10	Mr. Siddhartha Rajagopal	Executive Director TEXPROCIL	Secretariat
11	Mr. Ravi N. Ravindranathan	Deputy Director TEXPROCIL	Secretariat

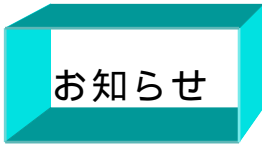
TEXPROCIL : THE COTTON TEXTILES EXPORT PROMOTION COUNCIL

日本側出席者

NO	名 前	日本繊維輸入組合での役職	会 社 名 & 役 職 名
1	足立 哲	理事長代行	執行役員 関西担当役員 繊維部門長代行 丸紅株式会社
2	西田 義博	副理事長	代表取締役社長 西田通商株式会社
3	内海 博基	専務理事	日本繊維輸出組合 日本繊維輸入組合
4	砂山 豊宏	綿委員長	繊維カンパニー繊維原料部繊維原料課長 伊藤忠商事株式会社
5	宮本 敏彦	綿副委員長	テキスタイル製品部衣料素材課課長 丸紅株式会社
6	由本 宏二	綿副委員長	生活産業部門 繊維・物資本部 パルテックス事業部テキスタイルユニット テキスタイルチームチームリーダー 双日株式会社
7	白井 義人	綿委員	営業第一本部第一事業部営業一課課長 株式会社ヤギ
8	藤本 清貴	綿委員	繊維貿易部次長兼第3課課長 NI 帝人商事株式会社
9	浜野 貴志	綿委員	3部1課 豊島株式会社
10	饗場 朋哉	綿委員	2部1課 豊島株式会社
11	吉田 学	寝具・インテリア委員長	生活資材部 部長代理(兼)ホームテキスタイル課長 丸紅株式会社
12	吉川 文正	寝具・インテリア委員	西田通商株式会社
13	白井 保則	組合員	東光商事株式会社
14	須田 忠剛	組合員	西田通商株式会社
15	米原 美砂子	日本綿スフ織物工業連合会	総務課長

ミッション日程表

日次	月 日	スケジュール	時 間
1	2006年 5/21 (日)	インド 日本	
2	5/22 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 足立理事長代行表敬及び会社訪問(丸紅) (正副団長含め5名程度) ・ 日印懇談会(輸出繊維会館) ・ 個別懇談(豊島、西田通商) ・ 理事長主催パーティ 	10:00~10:45 11:00~14:00 14:00~15:30 19:00~20:30
3	5/23 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ インド家庭用品展視察 ・ 日本紡績協会表敬 ・ 会社個別訪問(伊藤忠商事) ・ 日本の繊維業界新聞 「繊維ニュース」インタビュー及び懇談会 団長他1名(事務局) 	9:30~11:00 13:00~14:00 14:30~15:30 16:00~17:00
4	5/24 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工場見学 (株)川島織物セルコン ・ 小売市場の視察 (「ニトリ」&「ジャスコ」京都店) 	10:00~14:00 帰途
5	5/25 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊田自動紡機工場見学 	1日
6	5/26 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 辰巳織布(株) ・ Free 	10:00~11:00 午後
7	5/27 (土)	日本 インド	



繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出組合)

以下に掲げる保険申込書の「保険責任期間」が、平成 18 年 7 月末日に終了しますので、延長を必要とするものがありましたら、必要書類を添付の上、組合に申請してください。保険責任期間が「6 ヶ月」延長されます。

- * 平成 18 年 1 月に新規提出された決済条件が、「前受け」のもの
- * 平成 17 年 7 月に新規提出された決済条件が、「前受け」以外のもの

(注) 当初の保険責任期間は「前受け」6 ヶ月、「前受け以外」12 ヶ月となっています。

1. 提出期限：平成 18 年 7 月 20 日(木)
2. 提出書類： 貿易一般保険包括保険(繊維品)
 保険期間延長依頼書 2 通
 (用紙は事務局で準備しています。)
 延長を必要とする包括保険申込書のコピー .. 1 通
3. 提出先:総務部(☎06-6201-1832)

なお、延長手続きの FAX による申込みも可能です。(FAX:06-6201-1814)
 保険期間終了の保険申込書番号は以下の通りです。

前受けに係る 2006 年 1 月度受付保険申込書番号

記号 \ 受付局区分	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 6	100001 ~ 100628	100001 ~ 100283	100001 ~ 100030
	500001 ~ 500906		

前受け以外に係る 2005 年 7 月度受付保険申込書番号

記号 \ 受付局区分	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 5	104506 ~ 105078	101936 ~ 102256	100214 ~ 100242
	505488 ~ 506328		

お知らせ

「大韓民国」向け他2カ国の国カテゴリーの変更（輸出組合）

このたび独立行政法人日本貿易保険（NEXI）から、“「大韓民国」（国コード：103）向け他2カ国について、各国の政治経済情勢等を総合的に勘案し、見直しを行った結果、国カテゴリーを変更する”旨連絡がありましたので、通知します。この結果、以下の取扱いとなります。

1. 国倍率（3カ国）

<国コード>	<国名>	<国倍率>
103	大韓民国	1.0倍（旧2.0倍）
230	ギリシャ	1.0倍（旧2.0倍）
556	スワジランド	3.8倍（旧3.0倍）

* 国倍率（地域差料率）とは、非常危険てん補に係る保険料計算に適用される基本料率に対して掛けられる倍率です。

なお、ユーザンスが6ヶ月を超えるものは、ベルン・ユニオンのルールに基づき、従来どおり引受けられません。

2. 実施日：平成18年6月2日

「外国為替の基本」講習会（大阪地区）の開催（輸出入）

日本繊維輸出組合、日本繊維輸入組合および社団法人テキスタイル倶楽部は、在京阪神地区の組合員・会員各位の若手社員・新入社員に対する教育補完の一環として、下記により「外国為替の基本」講習会を開催することとなりましたので、お知らせ致します。

つきましては、受講ご希望の向きは6月9日付け組合員・会員通知同封の受講申込書により、来る6月27日（火）までに、下記連絡先にお申し込み下さい。

記

1. 日時 平成18年7月4日（火）午後1時～午後5時
2. 場所 大阪市中央区備後町3丁目4-9 輸出繊維会館中地階ホール
3. 受講料 無料（組合員・会員に限る）
4. 講師 三菱UFJリサーチ&コンサルティング
国際事業本部 貿易投資相談部
次長 平尾 喜代次 氏

5. 講習項目

- | | |
|----------------|------------|
| (1) 為替 | (6) 外国払い切手 |
| (2) 国際収支 | (7) 両替 |
| (3) 並為替による国際決済 | (8) 為替相場 |
| (4) 逆為替による国際決済 | (9) 外国為替法 |
| (5) 商業信用状 | |

6. 連絡先（FAX番号）

日本繊維輸出組合	TEL：06-6201-1812	FAX：06-6201-1819
日本繊維輸入組合	TEL：06-6202-5575	FAX：06-6202-5585
（社）テキスタイル倶楽部	TEL：06-6203-4120	FAX：06-6203-4119

お知らせ

- 2006年7月の輸入通関手続相談窓口開設日 -

2006年7月の輸入通関手続相談窓口は下記要領により開設します。
申告手続、品目分類、関税評価、暫8手続等々通関業務諸問題
についてご相談の向きはご連絡下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 開催日 2006年7月12日(水)及び7月26日(水)
2. 場所 日本繊維輸入組合 東京本部
3. 時間 午後1時より午後5時まで
4. アドバイザー 片山 喬次
(元東京税関関税評価部門特別価格審査官)
5. 連絡先

Tel 番号 03(3270)0791

Fax 番号 03(3243)1088

E Mail 0023@j t i a . o r . j p (片山)

なお、事前の面談申込みや相談窓口開設日以外のお問合わせ、
ご質問につきましては、事務局がお取次ぎ致しますので、本件
事務局担当：国信までご連絡下さい。

以上

組合員情報

組合員の脱会

(輸出) 平和株式会社(2006年5月3日付け)

ベニートヤマ株式会社(2006年5月15日付け)

(輸入) 新東邦株式会社(2006年6月7日受付)